

# するが 文学三館 めぐり

2018年

**9**月21日(金)

9時～17時

定員：各コース20人

参加料：1,500円(昼食代、入館料等含む)

## 周遊先

※集合場所・時間、周遊順など詳細は裏面

- ・ 焼津小泉八雲記念館 (焼津市三ヶ名 1550)
- ・ 中勘助文学記念館 (静岡市葵区新聞 1089-120)
- ・ 藤枝市郷土博物館・文学館 (藤枝市若王子 500)

## お申込み

受付：8月16日(木)9時～

ご希望の出発地点に、お電話でお申込ください。  
(先着順 / 定員になり次第受付終了)

- ・ 焼津小泉八雲記念館 054-620-0022  
開館時間 9:00～17:00(休館日：月曜 祝日の場合は翌日休館)
- ・ 静岡市コールセンター 054-200-4894  
受付時間 8:00～20:00(8/16のみ受付は9:00～)
- ・ 藤枝市郷土博物館・文学館 054-645-1100  
開館時間 9:00～17:00(休館日：月曜 祝日の場合は翌日休館)

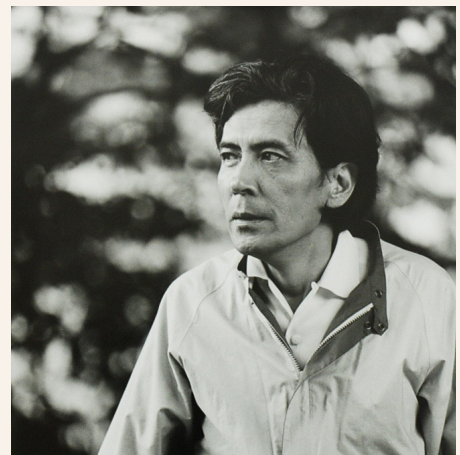
しずぶん  
ツアー  
vol.1



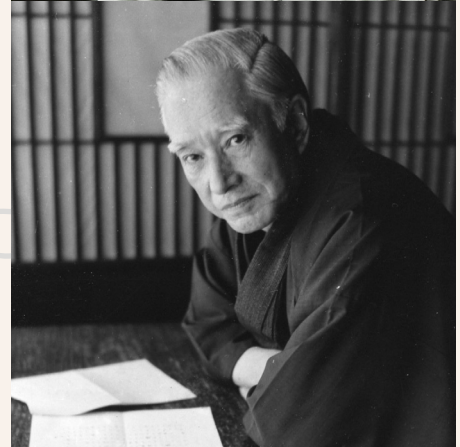
焼津の「小泉八雲」

静岡の「中勘助」

藤枝の「小川国夫」



小川国夫  
(撮影 相田昭)



中勘助

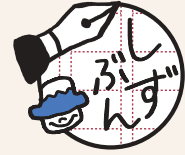


小泉八雲

静岡県中部地域は、日本近代文学史に名を残した文学者である小泉八雲（1850-1904）、中勘助（1885-1965）、小川国夫（1927-2008）にゆかりがある地です。この度、焼津市、静岡市、藤枝市の3市が連携し、各文学者を顕彰し紹介する施設3館をめぐるバスツアーを開催します。

彼らの文学や、それらを育んだ風土を体感するとともに、彼らが生きた明治、大正、昭和の時代に思いをはせながら、文学を通じて静岡の魅力を再発見してみませんか？

しずぶんツアーとは？



しず

ぶん

静岡にある文学館をみなさんに知ってもらい、その魅力を紹介するツアー。静岡の文学に親しみ、新たな静岡の魅力を見つげられるきっかけとなれば幸いです。

周遊コース（各館滞在時間：約60分～80分 昼食は2館目でとります）



- 焼津市 9:15 焼津小泉八雲記念館（集合・観覧）  
→中勘助文学記念館→藤枝市郷土博物館・文学館→焼津小泉八雲記念館（解散）
- 静岡市 9:00 JR静岡駅南口 スルガ銀行前（集合）  
→中勘助文学記念館→藤枝市郷土博物館・文学館→焼津小泉八雲記念館→JR静岡駅（解散）
- 藤枝市 9:15 藤枝市郷土博物館・文学館（集合・観覧）  
→焼津小泉八雲記念館→中勘助文学記念館→藤枝市郷土博物館・文学館（解散）

※上記コースは7/4現在の予定。周遊ルートは当日の道路状況などにより変更の可能性があります。



### 焼津小泉八雲記念館

明治時代に来日し、晩年、避暑地として焼津を愛した作家小泉八雲（ラファディオ・ハーン）の文学と、焼津との関わりを後世に伝えるために、平成19（2007）年にオープン。焼津関係資料を紹介した常設展示の他、年に2回の企画展示会や講演会、コンサートなども開催しております。また、館内併設の閲覧コーナーでは、1,000冊余りの八雲文献を公開しており、読書や研究活動にも利用いただけます。

小泉八雲の代表作

*Kwaidan*（『怪談』）  
明治39（1904）年  
ホートン・ミフリン社



「耳なし芳一」や「雪おんな」など、ハーンの代表作といえる怪談が収録された晩年の傑作。日本の古い物語にハーン独自の西洋的思想が融合された幽玄の世界が繰り広げられる。



### 中勘助文学記念館

中勘助文学記念館は、中勘助が昭和18（1943）年に東京から転地静養と疎開のために移り住んだ旧前田邸を「中勘助文学」の記念碑として位置づけ活用するため、中勘助の生誕110年目（没後30年目）にあたる平成7（1995）年に「中勘助文学記念館」として開館しました。中勘助直筆の原稿、書籍、遺品を展示しながら、貸室（無料）も実施。中勘助の顕彰の場、文化交流の場として、広く親しまれています。

中勘助の代表作

『銀の匙』  
大正15（1926）年  
岩波書店



中勘助の自伝的小説。主人公「私」の幼年期から青年期までを細やかに、品位ある文章で綴った名作。



### 藤枝市郷土博物館・文学館

藤枝市文学館は藤枝ゆかりの文学者・芸術家や文学作品・芸術作品に関する資料を収集・展示し情報発信するために平成19（2007）年に開館しました。建物は藤枝市民の憩いの場である蓮華寺池公園内にあり、郷土博物館とも接続しています。藤枝で執筆活動を終生続けた作家・小川国夫が日常の散歩道としてこよなく愛した蓮華寺池公園の自然の中で、藤枝の文学や郷土の歴史・文化を学ぶことができます。

小川国夫の代表作

『アポロンの島』  
昭和32（1957）年  
青銅時代社



地中海の溢れる光の中で、ひとり単車で旅する青年が出会う人々や風景を描いた、青春の書というべき一冊。